

平成26年11月

ちせいの里 「蛍流の森」の維持管理活動について

ロックエンゼルの会

1、「ちせいの里」の誕生とロックエンゼルの会

17年前、私たちの町は岡崎市開発公社によって、茅原沢町の山林を開発して誕生しました。101戸（1戸当たり100坪程）が居住ができ、現在は98戸が生活しています。

しかし、ここは交通不便地域で、額田支所と岡崎市民病院を結ぶバスが1日6回運転されているだけです。高齢になり、車の運転ができなくなると日常生活にも困るのが実情です。

生活用水は水道によってまかなわれていますが、自然災害などで停電すると、配水場への水道水汲み上げができなくなってしまうます。いわば、「陸の孤島」化の問題を抱えてもいます。



(蛍流の森空中写真)



(南の森見晴らし処から見た街並み)

このため、建設当初から、非常災害時に緊急時の飲料水を確保すべく住民有志は隣接する蛍流公園奥の山中に清水の湧出地点探索に乗り出しました。そうした努力の結果、毎分3リットルほどの石清水が湧出する箇所を発見することができました。ロックエンゼルの会は、こうした活動を進める中で発足に至りました。



(石清水の水源)

2、有志による「ホタルの里」づくり

「蛍流の森」山中から綺麗な沢水や石清水が流れ出ることが分かり、山すその一角に、この流れを活用して「ホタルの里」を造る構想が生まれました。

その構想実現の先頭に立ったのが町内会役員の故山本康政さんでした。彼は不幸にして、平成14年6月6日のゲンジボタルの初飛翔を見て、翌年2月に他界してしまいました。

その後、彼の遺志を継ぎ多くの町民が「ロックエンゼルの会」に結集して「ホタルの里」の造成に取り組み、町内の高齢者有志の会「清流の会」の協力も得て「ホタルの里」を完成させました。



(ホタルの里を流れる石清水川)



(年に1回造る日本酒天使の舞)

日本酒「天使の舞」の醸造、毎年6月のゲンジボタル飛翔、石清水川の造成(ニジマス・メダカ・金魚・水生昆虫保護など)などの活動を継続中です。

こうした「石清水」の安定的な維持管理活動が認められ、岡崎市から、平成20年3月に「市民環境目標認定証」を受けることとなりました。



(石清水の池のニジマス)



(石清水川の金魚)



(石清水の高札・市民環境目標)

3、「あいち森と緑づくり税」による里山整備事業を実施



(毎月実施中の蛍流の森の整備保全活動)

全国的に山林業の衰退が広がる中で、地主の高齢化とあいまって山林の荒廃が進んでいます。ちせいの里に隣接する「蛍流の森」もその例外ではなく、密生した杉や雑木のため地上まで日照が届かず大雨時には大量の土砂が沢に流入する事態が起きています。

こうした中で、平成22年「あいち森と緑づくり税」事業の資金で山道整備・除伐・間伐・木製階段造りなどが実施され、以後20年間にわたる整備保全活動がロックエンゼルの会に託されることとなりました。

28名の自主的な会員参加を得て、水源涵養・生物の多様性保持・地球温暖化防止などの公益的機能向上のため毎月1回の定期活動などが進行中です。



(森と緑づくり税で整備された木製デッキと階段)

この活動は地元の生平小学校や河合中学校、岡崎市、関係諸団体との協力を進める中で行なわれています。作業に必要な経費の一部は、ロックエンゼルの会の申請によって、前記「緑づくり税」でまかなわれています。

4、現在の主な活動

ロックエンゼルの会は、以上のような経緯で発足し活動を進めていますが、現在実施している活動は主に次のようなものがあります。



(子どもたちの間伐体験)



(子どもたちの手による巣箱設置の愛鳥活動)



(フジバカマ園にくるアサギマダラ) (水質検査を依頼している岡崎市総合検査センター)



(毎分3リットル湧出の石清水とシシ脅し)

- 1、清流の会の協力も得て、毎月1回定例「蛍流の森」整備保全活動
- 2、石清水で毎年1回地元日本酒「天使の舞」を醸造(今年は10周年)
- 3、石清水の定期水質検査を受け飲料水として活用中
- 4、「石清水川」で魚の飼育(ニジマス・メダカ・金魚・カワニナなど)
- 5、野鳥の保護活動(小学校児童による愛護活動)
- 6、フジバカマ園で、海を渡る蝶「アサギマダラ」を呼ぶ
- 7、毎月1回の「蛍流の森だより」発行(各戸回覧)
- 8、「蛍流の森ホームページ」「蛍流の森ブログ」を発信
- 9、その他

